

湛水直播管理情報 (第2号)

～湛水表面直播(鉄コーティング)～

令和2年4月24日
アルプス農協管内農業技術者協議会

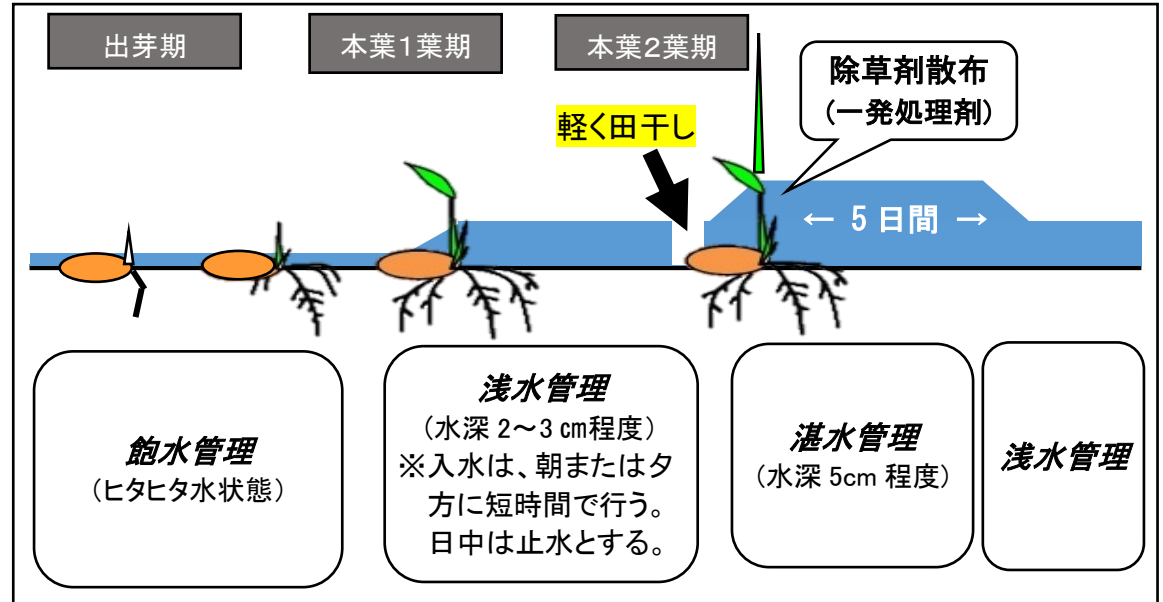
1. 出芽期以降の水管理

- ・ 出芽期から本葉1葉期頃まで飽水管理、1葉期以降は、浅水管理を行いましょう。
- ・ 除草剤(一発処理剤)を使用する前に軽く田干しを行い、根を土の中に伸ばしましょう。その後入水し、散布後5日間は湛水管理を保ちましょう。
- ・ 湛水管理後は浅水管理としてください。

⚠ 深水のままだと、藻が多発し、稲が軟弱徒長になり、苗立ちに影響するので、注意しましょう!

- ・ 藻や表層はく離が発生した場合は、軽い田干しや、水の入れ替えを行いましょう。

【出芽期以降の水管理のイメージ】



2. 初期害虫の防除

- ・ 移植栽培と違い苗箱施薬による防除ができないため、近年、イネミズゾウムシ等の初期害虫の発生が目立つ圃場がみられます。発生状況等に応じて、防除を実施しましょう。
(特に、直播の連作圃場では発生が目立つ傾向です!)

＜防除の目安(注:5月下旬～6月上旬に以下の防除目安を参考に防除を実施)＞

対象害虫	防除の目安	薬剤名	処理量	使用上の注意点
イネミズゾウムシ	成虫数 3.0頭/10株	トレボン 粒剤	2~3kg/10a	・湛水状態(3~5cm)で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも4~5日間は湛水状態を保つ(7日間は、落水、かけ流しはしない)。
イネドロオウムシ	成虫数 0.5頭/10株	トレボン 粉剤DL	3kg/10a	・前年多発した圃場等では発生状況を必ず確認する。 ・幼虫の食害が見られたら、防除の目安を参考に防除を行う。



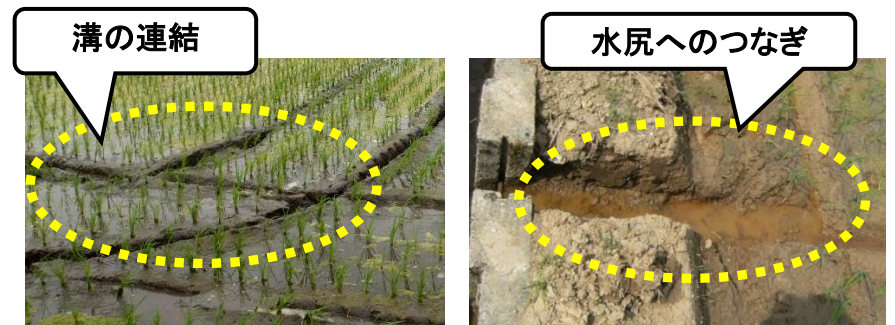
イネミズゾウムシ(成虫)と食害あと



イネドロオウムシ(幼虫)と食害あと

3. 溝掘りの実施

- ・ 入水と落水をスムーズにし、中干しの効果を高めるため、6月上旬までに溝掘りを実施しましょう。
- ・ 作溝は10~15条に1本の間隔を目安に行いましょう。また、播種機でできた溝の手直しや連結を確実に行いましょう。



4. 除草剤散布(雑草が残った場合)

- ・ 一発処理剤の散布後も雑草が残っている場合は、雑草の種類や発生状況に応じて、除草剤を散布しましょう。

発生草種	除草剤名	使用時期	10a当たり散布量	使用上の注意点
ノビエ	クリンチャー 1キロ粒剤	播種後10日~ノビエ3葉期 (ただし、収穫30日前まで)	1.0kg	・5cm程度の水深で散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
		播種後25日~ノビエ4葉期 (ただし、収穫30日前まで)	1.5kg	
	クリンチャーEW	播種後10日~ノビエ5葉期 (ただし、収穫30日前まで)	100mL (希釈水量25~100L)	・雑草の茎葉に確実に付着するよう、散布する。 ・晴天日を選んで散布する。 ・展着剤を加用する。
ノビエ、マツパイ ホタルイ 他	アクシズMX 1キロ粒剤	イネ2葉期~ノビエ4葉期 (ただし、収穫45日前まで)	1.0kg	・5cm以上の水深で散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後多量の降雨が予想される場合、使用を避ける。 ・水持ちの悪い水田、畦畔から漏水が多い水田では使用を避ける。
ノビエ マツパイ ホタルイ	クリンチャーバス ME液剤	播種後10日~ノビエ5葉期 (ただし、収穫50日前まで)	1,000mL (希釈水量70~100L)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・散布後に晴天が続くような日を選んで散布する。 ・展着剤は加用しない。
マツパイ、ホタルイ、 ミスガヤツリ 他	バサグラン液剤	播種後35~50日 (ただし、収穫50日前まで)	500~700mL (希釈水量70~100L)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・散布後に晴天が続くような日を選んで散布する。

※鉄コーティング直播圃場の場合、根が露出し、株がフラフラした状態での後期剤使用は控えましょう!

→まず田干しして、根を土の中に伸ばしてから散布しましょう。

(農薬は、ラベルの内容を確認し、安全使用基準を守って使用しましょう!)

